法人広報紙

かがやく瞳

じょうぶな体の子ども
ゆたかな心の子ども
のびのび遊ぶ子ども

No. 22

発行日　令和５年１１月１０日
発行責任者　大　江　　學
編　集　社会福祉法人
北見福祉会広報委員会
〒090-0835　北見市光西町 178-5
TEL　0157-57-5057
FAX　0157-57-4767

『灯火親しむ候』～読書のすすめ

周りの紅葉も色鮮やかに染まってまいりました。朝・夕、肌寒い時季となり、峠では降雪のニュースも報道され、冬将軍もすぐそこまで到来したのではないかと思うほどです。

さて、古くから伝えられている西洋の名言に「食物は体の糧、読書は心の糧」という言葉があります。中でも読書習慣を身につけることは、語彙力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力となり、楽しみの基ともなるものです。

しかし、急速に進む情報化の中で、子ども達の読書離れが大きな話題となっています。情報化が進むと断片的な情報を受け取るだけの受け身になってしまい、自分で物事を深く考えなくなります。読むことは考えることでもあり、自分で内容を考える必要があるからこそ読書が必要なのです。

ただ、ご家庭でも、「読みなさいよ！」だけでは、なかなか子どもの心を動かせないのが正直なところではないでしょうか。そこで、本と親しむ一番の方法は、子ども達の手元に本を置くことです。読まないで本棚に本を並べておくこと、俗に『つん読(つんどく)』というそうですが、これも立派な読書の一つだそうです。時々積んでおいた本に気付いて手に取ってみる。気に入ったところを拾い読みしたり、表紙を眺めているだけでも十分に新しい発見に出会えるものです。本と触れ合う中に本を読むきっかけがあります。まずは、本と触れ合う機会・環境をつくってみてはいかがでしょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊『特別支援教育』にご理解を！＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

我が子の育児の大変さや発達の不安を身近な人に相談すると、「うちもそうだよ」「元気でいいじゃない」「考えすぎ」「男の子だから」などと言われた経験がありませんか。

子ども達は一人一人が違った個性をもち、学ぶスピードや興味の対象も様々です。この子は得意なことがあの子は苦手、あの子が大好きなことがこの子は興味なし、といった違いがあるのは当たり前です。

しかし、中には、大部分の子ども達には苦も無くできることが、その子にとってはとても難しく、そのために日常生活や学習の面で非常に困っているという場合があります。こうした子は、発達につまずきを抱えているのかもしれません。

発達のつまずき、いわゆる「発達障害」とは、脳の高いレベルの働き（言葉を話す、聞いた言葉の意味を理解する、物事を考えたりするなど、脳の様々な部位の連動が必要となる複雑な脳の働き）の問題が、小児期までにあらわれたものをいいます。

発達障害には、どの子にも見られる行動ではあるけれど、その程度が通常の範囲を超えているものや通常の子には見られない行動が見られるというものもあります。これらは生まれつきの脳の発達特性が関係しており、しつけや育て方が原因ではありません。

発達障害の代表的なものとして ADHD(注意欠如・多動症)、LD(学習障害)、ASD(自閉スペクトラム症)などがあります。

こうした障害をもつ子ども達は、わざと問題を起こしているわけでも、本人の努力が足りないわけでもありませんが、「落ち着きのない子・乱暴な子・物覚えの悪い子・しつけのできていない子…」というような否定的な評価を受けやすく、保護者もまた、「育て方が悪い」などの誤解を受けることがあります。また、知能に遅れはないために、日常生活や学習の面で困難を抱えていても、障害とは気づかれにくく、必要なサポートを受けることができずに困っていることもあります。

特別支援教育の目的は、このような障害の特性ゆえの困難さを軽減することによって、本人や周囲の人が困っている状態を改善し、その特徴を自分らしさとして折り合えるようにしてあげること、他の子ども達と同じように学んだり遊んだりする機会を増やしてあげることにあります。

そのためにも、発達障害や特別支援教育を正しく理解していただき、関係機関としっかり連携し、その子の個性・能力・希望などを理解した上で、その子に合ったサポートをしていくことが大切です。
お子様のことで、何か気になることがありましたらお気軽に各こども園の先生方にご相談ください。

各こども園での「こども達の様子」を紹介します

９月２日、高栄小グラウンドで運動会を開催しました。当日は天気にも恵まれ、４年振りに観覧者の人数制限もなくお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんに観てもらえることができ、子ども達も大喜びでした。

４歳児・さくら組にとって初の紅白リレーでは、練習の時から白熱した戦いとなり、本番も盛り上がりました。５歳児・ひまわり組は、日頃から取り組んでいる縄跳びや跳び箱、逆上がりを披露したり、憧れていたパラバルーンにも挑戦しました。各クラス、どの競技も最後まで力いっぱいやりきり、立派な姿を見せてくれました。　（「運動会」～夕陽ヶ丘認定こども園）

５歳児・ひまわり組のお仕事の一つとして、お部屋と廊下の「雑巾がけ」が毎年春から始まります。
本園の廊下はとても長く、最初の頃はバランスを崩して転んだり、何度も途中で止まったりしていました。そんな子ども達も、外でたくさん走り回って遊んだり、長い距離の散歩等を通し身体も鍛えられ、夏を過ぎたころには長い廊下も最後まで一気に雑巾がけができるようになりました。おかげで廊下はいつもピカピカです。
子ども達の成長を感じる取組の一つです。　（「雑巾がけ」～光西認定こども園）

１０月３日、５歳児・ひまわり組だけの園外保育“５歳児汽車の旅”で「美幌林業館きてらす」に行ってきました。

子ども達は、前日から「汽車に乗るの初めて！」等、とっても楽しみにしていました。汽車に乗っている間、おしゃべりをしていると、あっという間に美幌に到着しました。現地では、たくさんの木の玩具や遊具に目を輝かせ、思う存分楽しみ、帰りの汽車でも眠くなることなく元気いっぱいの一日でした。
また一つ楽しい思い出が増えました。　（「５歳児汽車の旅」～みなみ認定こども園）

＊＊≪子どもからもらった ことば ≫＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

“穴があいていて、緑で、シャリシャリする野菜 ?”

息子が５歳８ヶ月だったある日の夜のこと。お風呂上りの息子は、パパ相手にマシンガントークを繰り広げていた。布団に入っても話は止まらず、その日食べた給食の話になった。
私が「お野菜は何を食べたの?」と聞いたところ、名前は分からないが「穴があいていて、緑の野菜」を食べたと言う。「レンコンか?」と聞いたが、レンコンではないらしい。緑の野菜を幾つか言ったが、どれも違うとのこと。

息子から、さらに「シャリシャリする」という追加のヒントが出てきたので、余計に分からなくなった。「穴があいていて、緑で、シャリシャリする野菜」というのは本当にこの世に存在するものなのか? 息子が食べたという謎の野菜で頭がいっぱいになり、気になりすぎて眠れそうになかった。
今月の給食の献立表を見たら野菜の名前が分かるかもしれないと気づき、布団から出て献立表を確認した。その日の献立表に材料として記載されていた野菜で「穴があいていて、緑で、シャリシャリする野菜」に該当するのは、長ネギであった。
確かに言われてみればそうである。穴があいている野菜＝レンコンというイメージしかなかった親の頭の固さと、子どもの表現力にびっくりした出来事であった。　（参考文献：保育通信）